

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01078

研究課題名(和文) 教師の「学び続ける力」の向上を支援するためのデジタル教科書の開発

研究課題名(英文) Development of Digital Textbooks to Support Teacher's "Sustainable Learning"

研究代表者

寺嶋 浩介 (Terashima, Kosuke)

大阪教育大学・連合教職実践研究科・准教授

研究者番号：30367932

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：政策等で提言されている教師の「学び続ける力」を「経験学習力」(松尾 2011)の向上ととらえ、教職についての省察を促すための教師用デジタル教材を開発した。基礎調査やパイロット実践に基づき、「経験から学ぶ教師」と「学び、変えられる教師」という2章からなる教材構成とした。各節において、振り返りを促すためのチェックリストなどを盛り込み、利用者がそれを活用し、先行研究等と比較する形で振り返ることができるような教材にした。教材については、中堅現職教員に利用してもらい、自身の教職について振り返ってもらった。その結果、このデジタル教材については、概ね効果的であると判断した。

研究成果の概要(英文)：The authors considered teacher's "Sustainable Learning" suggested in policy etc. as improvement of "experience learning ability" (Matsuo 2011) and developed a teaching digital teaching material to encourage reflection on teaching work. Based on basic survey and pilot practice, it was made up of two chapters, "teachers learned from experience" and "teachers to learn and change". In each section, the authors included a checklist and the like to encourage retrospect, and made it possible for users to utilize it and make it possible to look back in a form to compare with previous studies. Regarding teaching materials, we asked middle-ranked incumbent teachers to use them and looked back on their teaching position. As a result, we concluded that this digital learning material is generally effective.

研究分野：教育工学

キーワード：教師教育 経験学習 現職教員 デジタル教材 スクールミドル 複線径路等至性アプローチ
学び続ける教師 リフレクション

1. 研究開始当初の背景

近年、教師は医者や弁護士などのように、専門職として高度な知識や技能を身につけ、実践できることが求められている。ただし、情報化やグローバル化社会の進展の例に見るように、教師に求められる知識や技能の変化は激しく、近い未来ですら見通しにくい傾向にある。

このような状況において教師に求められる力のひとつとして、「学び続ける力」が今日では主張されている。例えば、ショーンが専門職像として、「反省的実践家」の概念を提示し、実践の中で、日々その行為を省察しながら新しく実践をすることを通して、学び続けることの重要性を指摘している。また、文部科学省も「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」において、これからの教員に求められる資質として「教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」をとりあげている。

この教師の「学び続ける力」を向上させるための方策として、教職実践演習の必修化、教職大学院の設置、教員免状更新講習の実施など、政策としては数多くの取り組みが実施されている。しかし、これに対し、教師の「学び続ける力」の向上を意図して開発されている具体的な教材が少なく、個々の教師の経験や勘に委ねられている現状がある。

そこで、本研究においては経営学等において頻繁に活用されている理論的枠組である「経験学習」の視点から、「学び続ける教員像」をとらえることにした。それは、「学習者が過去の経験を振り返り、概念化したものを次の新しい経験に当てはめていく」という経験学習のプロセスが、本研究でいう「学び続ける力」と合致するからである。これまで経験学習論において、経験から学ぶプロセスは、「具体的経験」「内省的観察」「抽象的概念化」「能動的実験」からなるサイクルとして示されてきた。そして、このサイクルにおいて重要な事は、サイクルを学習者自身がうまくまわし続ける「経験学習力」とであると指摘されている(松尾 2011)。本研究では経験学習論の枠組みを用いて、教師の「学び続ける力」を「経験学習力」と捉えた。

このように、教師の「学び続ける力」を向上させるためには「経験学習力」を向上させる必要があるが、そのような教師用教材は存在しない。

2. 研究の目的

本研究においては、教師の「学び続ける力」を支援するために、経験学習の視点から教師自身が教職経験を省察し、今後の自己成長に結びつけることのできる力をつけるためのデジタル教科書を開発し、その効果を検証する。

3. 研究の方法

「教師を対象としたデジタル教科書の開

発」

「開発したデジタル教科書の評価」のふたつにわけ、設計—開発—評価のサイクルを二度繰り返すことで、デジタル教科書を開発し、より質の高いものに仕上げようとした。

まず、これまでに行ってきた経験学習力向上のためのプログラムについて、その背景理論の補強とインタビュー調査により、デジタル教科書を開発した。また、開発されたデジタル教科書を学校現場の教師に利用してもらい、評価した。

4. 研究成果

(1) 現職教員へのインタビュー調査

教材の構成を検討するために、理論的背景を検討するだけでなく、学校改善を担うスクールミドルの成長発達に寄与する教職経験の具体を明らかにした。学校改善に取り組む2つの公立高校を研究事例とし、スクールミドル5名を対象にインタビュー調査を実施した。複線径路等至性アプローチを用いて分析した結果、スクールミドルは校務分掌の一環としてパイオニア径路とフェロー径路のいずれかを経た経験を持つ事が明らかとなった。具体的には、パイオニア径路の教師は分掌内で学校改善案を提案し分掌内外の教師との関係調整等を行いフェロー径路の教師よりも強くリーダーシップを発揮している可能性が示唆された。また、フェロー径路の教師はパイオニア径路の教師とは異なる役割を自律的に担った経験等を経ている。径路進行の際には受験指導等を重視する学校文化との衝突が生じ、スクールミドルは同僚グループによる協力体制を形成した上で先輩教師からの支援を受けた経験を経ている事が明らかとなった。

(2) 教材のコンセプト

「学び続ける教師」像をより具体化するために、理論的な根拠を経験学習に求め、「経験から学ぶ教師」をコンセプトの中核にしようとした。それに従い、これまで教員免許状更新講習や量的な調査で得られた知見(寺嶋 2013, 2015)をもとに教材化しようとした。一方、「学び続ける教師」について、そのモデルケースとなるような教師の質的な調査を追加して行った(時任・寺嶋 2015, 2016)。その結果、先に述べたように、自分で経験を通して個人的にも学び成長しながら、学校という組織内で実際に他の人を巻き込みながら現状を改革・改善しようとしている教師がいること(パイオニア教師)がわかった。それだけではなく、そのパイオニア教師の意図を受け止め、ただ従うだけではなく、能動的に「自分の仕事」を達成していく教師(フェロー教師)が存在することがわかった。これは、先の「経験から学ぶ教師」というコンセプトのみでは描けないことから、「学び、変えられる教師」という第二の重要なコンセプト

トとして、教材に追加することになった。

(3) 教材の構成

先のコンセプトに基づき、経験学習を通しての成長について認識をさせ、「学び変えられる教師」へつなげる構成とした。具体的には、以下のような章および節構成を取る。

1章：「経験から学ぶ教師」

(a) 今までの教職人生について振り返る

今までの教職人生について、振り返らせる。そしてこれからの教職人生において、必要な経験を考えさせる。

(b) 一皮むけた経験について振り返る

今までの教職人生の中で、一皮むけた経験を選び、その特徴について考えさせる。

(c) 自身の経験学習力を考えさせる

松尾(2011)の経験学習チェックリストを用いて、自身の経験学習について振り返らせる。そして、これからの人生について考えさせる。

2章：「学び、変えられる教師」

(a) 校内での教師としての役割

自分自身が学校内の組織においてどのような立場であったのかをチェックリストを利用して振り返らせる。

(b) 自らの立場で取り組むべきこと

今、自らが置かれた立場で、どのようなことができ、何が出来ていないのかを振り返り、これからの職場への関わり方を考えさせる。各節では、自己の省察 他の情報との比較 未来へ向けて コラムという形で構成されている。 においてはチェックリストやワークラインなどのツールを活用し、可視化をする。 においては、これまで取り組んできた調査等をデータとして引き合いに出し、自身のデータと比較させる。 においては、 をもとに考えさせる。 においては興味をもった人がさらに勉強できるように、その章における背景理論や参考書等を紹介した。

(4) 教材の評価

上記の内容に基づいた教材について、実際に中堅教員に利用してもらい評価を行った。その結果、当該教員からは「これまでは振り返ることができなかったことについて振り返ることができた」ということがわかった。また、教材の利用を通して、自分が経験学習力の点でどの点に課題があるのかを感じさせることができた。加えて、現場の状況に応じた今後の課題を「学び、変えられる教員」の視点から立てることができた。

これらが実際に学校現場で力を発揮することができることにつながるかは、継続的に評価をしていく。

<参考文献>

寺嶋浩介(2013) 教員免許状更新講習「教職についての省察」の設計—教師の経験学習に対する認識に基づいて—。 日本教育工学会

研究会報告集 JSET13-2: 33-40

寺嶋浩介(2015) 経験学習力に対する教師の自己評価の分析。教育実践研究, 9: 1-5

時任隼平, 寺嶋浩介(2015) 教師の「学び続ける力」の向上と職場環境の関係性に関する研究 第12回日本質的心理学会

時任隼平, 寺嶋浩介(2016) 高校教師が教育改善を目的とした学習共同体へ参画するプロセスに関する研究。日本教育工学会研究会報告集, JSET16-1: 119-122

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. 時任隼平・寺嶋浩介(2018 予定) 学校改善を担うスクールミドルの成長発達に寄与する教職経験に関する研究『日本教育工学会論文誌』42(1)

2. 寺嶋浩介・時任隼平(2017) 教師の「学び続ける力」の向上を支援するための教材の開発『日本教育工学会 SIG02 レポート2017』, pp.45-46

3. 時任隼平・寺嶋浩介(2016) 高校教師が教育改善を目的とした学習共同体へ参画するプロセスに関する研究『日本教育工学会研究会報告集』JSET16-1, pp.119-122.

4. 寺嶋浩介(2015) 経験学習力に対する教師の自己評価の分析『教育実践研究』9 pp.1-5.

<https://opac-ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/webopac/TD00028491>

[学会発表](計3件)

1. 寺嶋浩介(2018) リフレクションツールの開発 日本教育工学会 SIG02 教師教育・実践研究第6回研究会『教師の学び及び教育実践研究の方法論を考える』パネルディスカッション

2. 寺嶋浩介・時任隼平(2017) 教職についての省察を促す教材ツール群の試作『日本教育工学会 第33回大会講演論文集』pp.37-38

3. 時任隼平・寺嶋浩介(2015) 教師の「学び続ける力」の向上と職場環境の関係性に関する研究 第12回日本質的心理学会

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺嶋 浩介 (TERASHIMA, Kosuke)
大阪教育大学・大学院連合教職実践研究科・
准教授
研究者番号： 30367932

(2) 研究分担者

時任 隼平 (TOKITO, Junpei)
関西学院大学・高等教育推進センター・講師
研究者番号： 20713134